

中野市が「愛される都市」となるための課題と戦略

研究員：有賀裕介、綿貫吉真、芳澤敏明、久保英梨香

1. 調査の背景と目的

- ◇中野市の人口が、平成 27 年作成の「中野市人口ビジョン：平成 31 年の目標人口」よりも既に 366 人も少なくなっている。
- ◇中野市から転出した方の年齢において一番人数の多い 10 代後半から 20 代の特徴として、市民満足度調査の結果、「愛着」が他の年代よりも低い傾向であることが分かった。



「中野市に対する愛着が低い」＝「転出率が高くなり人口減少となる」と仮定し、転出を考える前の高校生世代に対して、より本市に愛着を持つためのアクションプランが必要であると考えた。

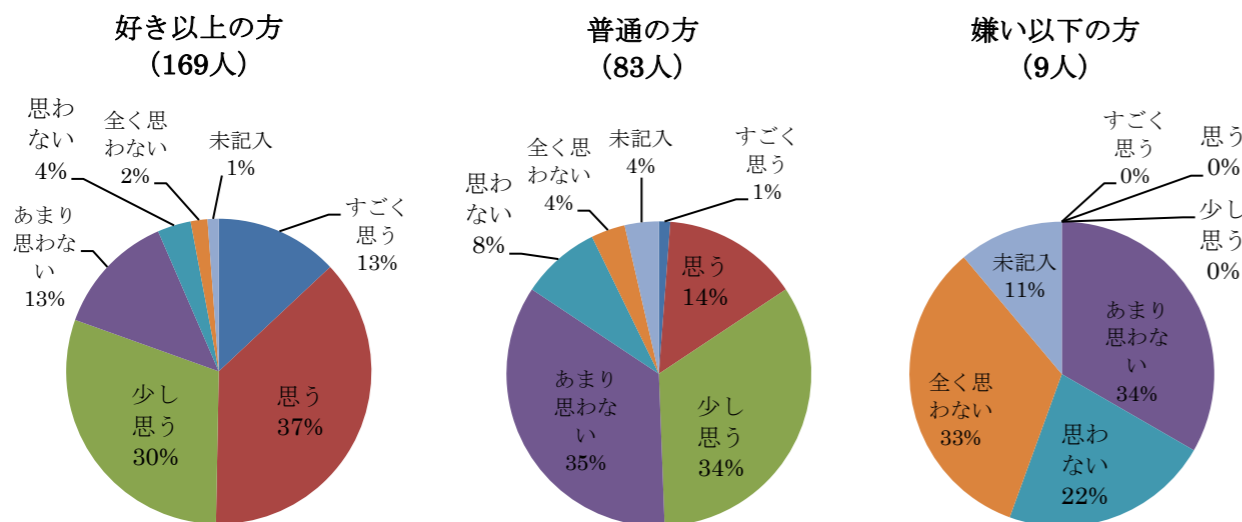
2. 実施した内容

- ◇中野西高校の生徒に対し、「中野市に対する意識アンケート」を実施した。
 - ・期日：9月19日（木）
 - ・回答者：549人（市内在住者：261人、市外在住者：284人、住所未記入：4人）
 - ・調査方法：中野市に対してどのようなイメージを持っているかについて、6択制による15の質問の他、3つの自由回答による質問を行った。（別紙アンケート用紙のとおり）

3. アンケート調査の回答から見えること

- ◇問 4「中野市のことをどう思うか」の回答結果と、問 18「将来同じ地域に戻りたいか」の回答結果の関連性について（図表 1 のとおり）

図表 1 「愛着」と「地元へ戻りたい気持ち」の関連性について（市内在住者：261人）



将来、中野市に戻ってきたい方の割合について、好き以上の方は「すごく思う～少し思う」が 80%あるのに対し、普通の方は 48%、嫌い以下の方は 0%であることから、愛着が高いことは、将来中野市に住むこと（地元へ戻ってくる）と繋がる可能性が高いと考えられる。

チェック

転入者増加の可能性も！？

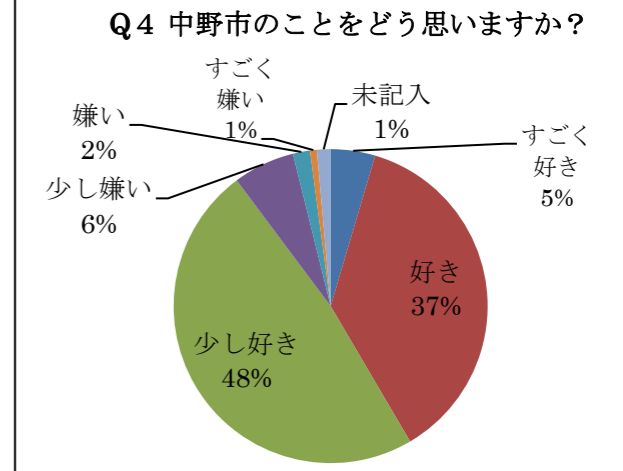
中野西高校に市外から通う生徒は、全体の約 52%に当たる 284 人と非常に多く、中野市のことを図表 2 のように感じている。

このことから、本市への愛着を上げることができれば、将来の転居先として中野市を選ぶ可能性も高くなるのではないかと。



「少し好き」以下の人を「好き or すごく好き」の人へ！

図表 2 市外から通う生徒の中野市への思い



4. 課題とその解決方法の検討

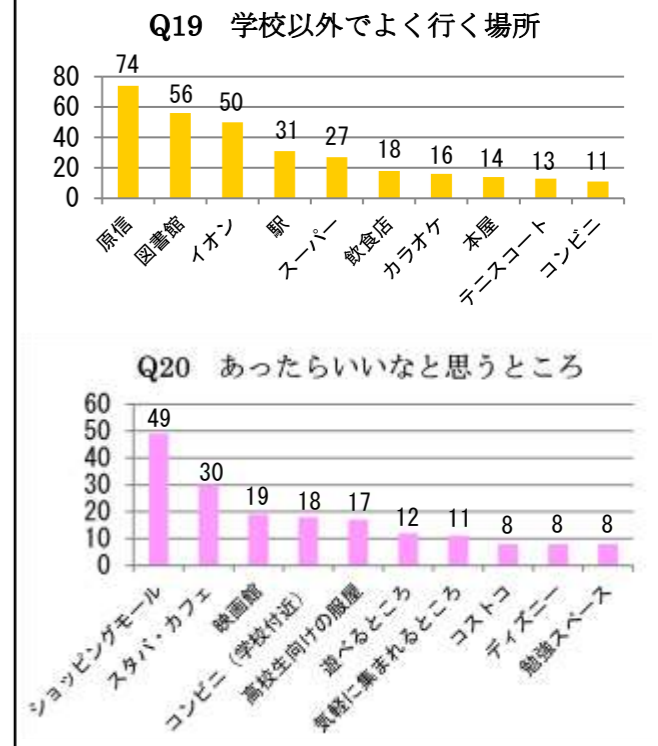
- ◇「問 19 学校以外でよく行く場所」と、「問 20 中野市にあったらいいなと思うところ」について集計を行うと、図表 3 のとおりとなった。

よく行く場所では、「原信、図書館、イオン」が多く、あったらいいなと思うところでは、「ショッピングモール、カフェ」のほか、「高校生が行きやすいところ」を求める声が多く、高校生にとって中野市に気軽に集まることができる居場所がないということが見てとることができた。



高校生が“気軽に”集まることができる居場所を作ることが、中野市への愛着を上げる近道！？

図表 3 自由回答による回答結果



5. 今後のスケジュール

内容	11月	12月	1月	2月	3月
アンケートの集計結果を基にワークショップを実施					
市内の空きスペースの活用を検討					
活用可能な空きスペースでイベントを実施					
参加者に再度アンケート調査を実施し検証を行う					
検証結果をもとに施策を提案					